

WHO news August 2021

2021年8月4日

[HE Ellen Johnson Sirleaf and Rt Hon. Helen Clark brief Member States at the United Nations General Assembly on pandemic response](#)

Her Excellency Ellen Johnson Sirleaf, former President of Liberia, and Rt Hon. Helen Clark, former Prime Minister of New Zealand, today briefed Member States at the United Nations General Assembly on measures to respond to COVID-19 and prevent future pandemics. HE Ellen Johnson Sirleaf and Rt Hon. Helen Clark were Co-Chairs of the Independent Panel for Pandemic Preparedness and Response which reported to the World Health Assembly in May 2021 on lessons learnt from the international response to COVID-19.

独立委員会、パンデミック対応を国連総会で説明

パンデミック対策に関する独立委員会は、国連総会において、COVID-19への対応と将来のパンデミックの予防策について加盟国に説明しました。

独立委員会の提言には、国連総会で国際システム強化のための工程を定めた政治宣言を採択すること、国家元首および政府レベルで世界保健脅威評議会を設立し、そのメンバーを総会で承認することが含まれています。また、WHOを強化し、権限を与える措置を講じることを求め、新しいパンデミック枠組み条約の提案を支持しています。

さらに、9月までに10億回分のCOVID-19ワクチンを中低所得国に配分し、来年半ばまでにさらに10億回分のワクチンを再度配分すること、そして、すべての国がパンデミックを抑えるために公衆衛生の手段をフルに活用することを求めました。

独立委員会は地政学的な緊張とナショナリズムが、世界の安全を守るための多国間システムを弱めていることを明らかにし、「パンデミックは単なる健康上の危機ではなく、社会的、経済的、政治的、そして平和と安全保障上の危機でもあるとしました。

2021年8月4日

[NTDs: sustainably financed, standardized global monitoring and evaluation – critical to achieve 2030 road map targets](#)

The recently published framework for monitoring and evaluation (M&E) presents a methodology for planning, participation and evaluation. It shows how the shifts described in the road map for neglected tropical diseases (NTDs) will come about and how to measure progress towards reaching the 2030 goals and targets.

顧みられない熱帯病：ロードマップ 2030 達成に共通のデータと評価を

7月21日に開催されたWHOオンライン会議で、顧みられない熱帯病(NTDs)のロードマップ2030を達成するためには、監視と評価の枠組み(M&E)の重要性が指摘されました。目標に対して進捗していることを示す、分野を横断する共通の指標を用いてパフォーマンスを追跡することの重要性が議論されました。効率的かつ持続的なM&Eの例として、世界のスキストゾーマ症、水・衛生・トイレ(WASH)プログラム、狂犬病とワン・ヘルスなどが上げられました。これらのM&E活動から得られた教訓は、他の疾病分野にも取り入れるべきです。

2021年8月4日

[New advocacy brief highlights serious consequences of social isolation and loneliness on the health of older people, calls for greater political priority to the issue](#)

Released in advance of tomorrow's International Day of Friendship, a new advocacy brief highlights that social isolation and loneliness among older people are widespread globally. The COVID-19 pandemic and the resultant physical distancing measures have exacerbated these conditions. The UN Decade of Healthy Ageing 2021 – 2030 presents a major opportunity for the World Health Organization (WHO) and other United Nations agencies to address social isolation and loneliness in a more sustained way.

孤立と孤独：高齢者の健康

7月30日は国際フレンドシップデーです。WHOは、意味のある人間関係が健康や幸福全体にとって重要であるとしています。COVID-19のパンデミックはこれらの問題を明らかにしました。社会的孤立や孤独は、最近、いくつかの国、特に日本や英国で、公共政策や公衆衛生の議題として取り上げられるようになりました。

中国、インド、アメリカ、ヨーロッパやラテンアメリカの地域では、高齢者の20～34%が孤独であると言われています。施設での割合はさらに高くなっています。社会的孤立や孤独は、高齢者の寿命を縮め、心身の健康や生活の質を損ないます。

WHO、国際電気通信連合、UN Women、国連経済社会局は、国連の「健康長寿のための10年間Decade of Healthy Ageing」において、社会的孤立と孤独に対処するための3つの戦略を提案しています。

- 1) 社会的孤立と孤独に対する政治的優先順位を高めるための世界的な連合体を作る。
- 2) 研究を改善し、効果的な介入策のエビデンスを強化する。
- 3) 効果的な介入策の実施とその拡大

2021年8月4日

[Call to Action on Antimicrobial Resistance 2021](#)

The Call to Action on Antimicrobial Resistance (AMR) - 2021 was launched during the closing

session of the High-Level Interactive Dialogue on Antimicrobial Resistance on 29 April 2021 to raise global ambition on AMR whilst accommodating diverse national circumstances.

抗菌薬耐性 (AMR) への行動を呼びかけ

2021年4月29日に開催された「抗菌薬耐性 (AMR) に関するハイレベル対話」の閉会式で、「抗菌薬耐性に関する行動要請 - 2021」が発表されています。これは、各国の多様な状況に対応しながら、抗菌薬耐性に関する世界的な関心を高めるためのものです。

今回の報告書は、AMR 対策の強化、AMR 対策に関するこれまでの公約の加速化、抗菌薬を管理・使用する責任の在り方、AMR 対策の資金調達に向けた取り組み、AMR の影響に関する研究の強化、新しいAMRに関するワン・ヘルス・グローバル・リーダーズ・グループへの支援などを求めています。

2021年7月30日現在、「行動の呼びかけ」には113の加盟国が署名し、29の支援団体が参加しています。

2021年8月4日

[Joint statement by UNICEF Executive Director Henrietta Fore and WHO Director-General Dr. Tedros Adhanom Ghebreyesus on the occasion of World Breastfeeding Week](#)

At the start of this year, governments, donors, civil society and the private sector united to launch the Nutrition for Growth Year of Action. The Year of Action is a historic opportunity to transform the way the world tackles the global commitment to eliminate child malnutrition.

Breastfeeding is central to realising this commitment.

ユニセフとWHO：母乳育児を守ろう

8月1日～7日は世界母乳育児週間です。

生後1時間以内に母乳育児を開始し、6カ月間は完全母乳で育て、2年以上母乳育児を続けることができれば、衰弱や肥満など子どもを栄養不良から守ることができます。また、母乳育児は赤ちゃんの最初のワクチンの役割を果たし、多くの一般的な病気から赤ちゃんを守ります。

過去40年間で母乳育児率は向上しており、世界的には完全母乳育児の割合が50%増加していますが、COVID-19のパンデミックは、こうした成果のもろさを浮き彫りにしています。いくつかの国では、ベビーフードの生産者が、母乳育児によってCOVID-19が感染するという根拠のない不安を煽り、母乳育児に代わる製品を販売することで、栄養不良のリスクを増大させています。

今年の世界母乳育児週間は、「母乳育児の保護：皆で担うもの」をテーマとしています。

ベビーフード業界による強引なマーケティングから母親を守るために制定された「母乳代用品のマーケティングに関する国際規範」が、政府、医療従事者、業界によって完全に実施されるようにならなければなりません。

2021年8月4日

[Partnering to ensure essential health services during the pandemic](#)

Safeguarding continuity of essential health services amidst the pandemic is a global challenge: when health systems are overwhelmed, people struggle to access vital care. As a result, both direct mortality from COVID-19 and indirect mortality from preventable and treatable conditions have been on the rise. WHO and its partners support countries maintain and boost their health systems' performance and save lives.

パンデミック時にこそ必要な医療サービスの継続性を

パンデミックの渦中でも必要不可欠な医療サービスの継続性を確保することは、世界的な課題となっています。医療システムに負担がかかると、重要な治療を受けることができません。その結果、COVID-19による直接的な死亡率と、予防・治療可能な疾患による間接的な死亡率の両方が上昇しています。

WHO とそのパートナーは、各国が保健システムのパフォーマンスを維持・向上させ、命を救うことを支援しています。

各国地域での取り組みは以下の通りです（カッコ内は主要な取り組みテーマ）。

ネパール（NCD）、セントビンセント・グレナディーン諸島（セルフケア）、ブルンジ（HIV / AIDS）、エリトリア（ナショナル・ヘルス・セクター）、カンボジア（妊婦、赤ちゃん）、チャド（新生児の HIV 感染防止）、キルギスタン・ウズベキスタン（NCD）、イラン、ジャマイカ（メンタルヘルス）、カンボジア・ラオス（気候変動に強い医療システム）、グアテマラ（暴風雨の被害対応）、ナイジェリア（結核）、スロベニア（プライマリ・ヘルス・ケア）、サントメ・プリンシペ（たばこ対策）

2021年8月10日

[700-plus healthcare workers and patients killed in attacks on facilities: WHO](#)

More than 700 healthcare workers and patients have died, and more than 2,000 have been injured in attacks on health facilities since December 2017, according to a three year analysis by the World Health Organization (WHO) released on Tuesday.

医療施設への攻撃で 700 人以上の医療従事者と患者が死亡し、2,000 人以上が負傷

WHOによると、緊急事態に見舞われた 17 の国と脆弱な地域において、医療従事者、患者、物資、救急車、施設への攻撃があり、2017年12月以降3年間で、700人以上の医療従事者や患者が死亡し、2,000人以上が負傷していることがわかりました。

攻撃の影響は、ヘルスワーカーのメンタルヘルスや出勤意欲、コミュニティのヘルスケアを求める意欲などの低下を招き、また、健康危機に対応するための資源が激減するなど、多方面に及ん

でいます。

一つの事件でも影響の波及範囲は広く、医療システム全体に長期的な影響が及んでいます。

[分析結果の詳細](#)

2021年8月10日

[Fraudulent “COVID-19 Compensation Lottery Prize” scam, falsely alleges association with WHO and others](#)

The World Health Organization (WHO) has been made aware of correspondences being circulated by scammers (acting under the name of Capital Finance, Inc. London), falsely notifying recipients of such correspondences that they have been selected as a beneficiary/winner of a US\$1 million lottery compensation prize payment for losses and damages suffered as a result of the COVID-19 pandemic.

ご注意：COVID-19 補償金宝くじ詐欺メール出回る

Capital Finance, Inc (ロンドン) を名乗り、COVID-19 パンデミックによって被った損失や損害に対する 100 万米ドルの宝くじ補償賞金の当選者に選ばれたと偽った、詐欺メールにご注意下さい。国際通貨基金 (IMF) およびビル & メリンダ・ゲイツ財団と共同で WHO が提供するものであると偽り、受信者から個人情報や、場合によっては金銭を得ようとするものです。

WHO は、“COVID-19 Lottery Compensation Prize ” (COVID-19 補償金宝くじ) の詐欺行為は一切関与しておらず、関連もありません。また、WHO は、銀行口座や、パスポートや身分証明書のコピー、住所、電子メールアドレス、電話番号、職業などの個人情報の提供を個人に求めることはありません。

2021年8月10日

[New WHO toolkit promotes inclusion of people with dementia in society](#)

“Towards a dementia-inclusive society: WHO toolkit for dementia-friendly initiatives”, launched today, is WHO’s latest tool for establishing and scaling-up dementia-friendly initiatives globally.

認知症の人びとと共生するための WHO ツール

このツールキットは、認知症の人が地域社会にとどまり、重要な役割を果たすことができるように、認知症に対する国民の認識と理解を高めるためのものです。

地域社会が、認知症の人びとに配慮したプログラムを計画、実施、評価したり、年齢に配慮した環境や国連の「健康な高齢者のための 10 年」など他の活動プログラムに認知症の人びとを統合するのに役立ちます。

2021年8月10日

[West Africa's first-ever case of Marburg virus disease confirmed in Guinea](#)

Health authorities in Guinea today confirmed a case of Marburg virus disease in the southern Gueckedou prefecture. This is the first time Marburg, a highly infectious disease that causes haemorrhagic fever, has been identified in the country, and in West Africa.

ギニアでマールブルグウイルス症発生

WHOは、西アフリカで初となるマールブルグウイルス症の発生がギニアで確認されたと発表しました。マールブルグは、エボラ出血熱の原因ウイルスと同じ仲間で、オオコウモリから人に感染し、感染者の体液や表面、物質に直接接触することで人の間に広がります。症状は突然始まり、高熱、激しい頭痛、倦怠感を伴います。多くの患者が7日以内に重度の出血性症状を発症します。致死率は、ウイルスの種類や患者の管理状況によって、24%から88%と幅があります。このウイルスはギニアが今年初めに発生したエボラ出血熱の終息を宣言してから2ヶ月も経たないうちに検出されました。WHO専門家10名のチームが現地で調査を行い、リスク評価、疾病調査、地域住民の動員、検査、臨床治療、感染予防、後方支援などの緊急対応を迅速に行うために、各国の保健当局を支援しています。また、国境を越えた監視体制も強化されて、近隣諸国は警戒態勢に入っており、感染者の早期発見に努めています。

2021年8月11日

[Target product profile for next-generation TB drug-susceptibility testing at peripheral sites](#)

The World Health Organization (WHO) is launching its updated target product profile (TPP) for next-generation drug-susceptibility (DST) testing for M. tuberculosis at peripheral centres

結核菌薬剤感受性検査の次世代製品性能

WHOは、地域の検査センターにおける結核菌の次世代薬剤感受性検査の目標とする最新の製品性能を発表しました。

結核の早期診断と薬剤耐性の確認は、「結核撲滅戦略」の第1に掲げる重要な要素であり、国連の結核政治宣言に盛り込まれた4,000万人の目標達成に不可欠なものです。

WHOは、ここ数十年で結核の診断方法は劇的に進化したが、大きな障害となっているのは、患者の身近にあるより優れた検査ツールの普及です。今回の目標とする製品特性は、特に新しい結核薬への耐性を迅速に検出するなど、現在の課題や新たな課題への取り組みに一步近づけるも

のであるとしています。

[TPP \(製品性能\) の詳細](#)

2021年8月11日

[Tracking universal health coverage: 2017 global monitoring report](#)

A number of the 17 Sustainable Development Goals (SDGs) adopted by the United Nations General Assembly in September 2015 have targets that relate to health. However, one goal – SDG 3 – focuses specifically on ensuring healthy lives and promoting well-being for all at all ages. Target 3.8 of SDG 3 – achieving universal health coverage (UHC), including financial risk protection, access to quality essential health-care services and access to safe, effective, quality and affordable essential medicines and vaccines for all – is the key to attaining the entire goal as well as the health-related targets of other SDGs.

UHC 実現への道のり : 2017 世界の進捗状況レポートから

国連の掲げる持続的開発目標 SDGs は 2015 年から始まっています。UHC の実現は 17 の目標の一つです。

UHC サービスカバー率指数で見ると、東アジア (指数 77) と北アメリカ・ヨーロッパ (同じく 77) が最も高く、サハラ以南のアフリカは最も低く (42)、次いで南アジア (53) となっています。

また、2010 年には、世帯の総収入の 10% を超える医療費の自己負担があった人が 8 億 800 万人 (世界人口の約 11.7%)、25% の基準値を超えた人が 1 億 7900 万人 (同 2.6%) いたと推定されます。

9 つの進捗指標の中で、最も急速な増加率を示したのは、HIV に対する抗レトロウイルス治療の普及率 (2000 年の 2% → 2016 年の 53%) と、マラリア予防のための殺虫剤処理された蚊帳の使用率 (2000 年の 1% → 2016 年の 54%) でした。とはいえ、UHC の実現にはまだ長い道のりがあります。

データの制約により、適切なサービスを受けている人の数を正確に測定することはできませんが、世界の人口の少なくとも半分が必須サービスを完全に受けていないことは明らかです。

2021年8月17日

[WHO's Solidarity clinical trial enters a new phase with three new candidate drugs](#)

The World Health Organization (WHO) has announced the next phase in its Solidarity trial: Solidarity PLUS will enroll hospitalized patients to test three new drugs in hospitalized COVID-19 patients.

These therapies - artesunate, imatinib and infliximab – were selected by an independent

expert panel for their potential in reducing the risk of death in hospitalized COVID-19 patients. They are already used for other indications: artesunate is used for severe malaria, imatinib for certain cancers, and infliximab for diseases of the immune system such as Crohn's Disease and rheumatoid arthritis.

COVID-19 を対象とした 3 種類の既存薬の臨床試験開始

WHO は、マラリア治療薬アルテスネート、白血病治療薬イマチニブおよびクローン病治療薬インフリキシマブの 3 種類の治療薬を用いた臨床試験 Solidarity PLUS を開始します。

本試験には 52 カ国、600 以上の病院と数千人の研究者が参加します。この試験では、単一のプロトコルを用いてそれぞれの治療薬を同時期に評価し、何千人もの患者を組み入れ、薬剤の死亡率低減効果（中等度の効果も含む）を確実に推定することができます。

また、試験期間中に新しい治療法を追加したり、効果のない治療法を中止したりすることも可能です。

2021 年 8 月 17 日

[WHO, Facebook and Praekelt.Org provide critical mobile access to COVID-19 information for vulnerable communities](#)

WHO is working with Facebook and Praekelt.Org to provide WHO's COVID-19 information to the world's most vulnerable people through Discover and Free Basics in a mobile-friendly format.

WHO、Facebook、Praekelt が Covid-19 情報をモバイルで提供

世界人口の 85 % 以上が携帯電話の電波が届く地域に住んでいますが、モバイルデータを安定して購入できない人や、まだインターネットを利用していない人も多くいます。COVID-19 による公衆衛生上の危機においては、人々が常にインターネット上の健康情報やその他の情報源の利用を増やすことが、これまで以上に重要になっています。

WHO は Facebook と Praekelt.Org と協力して、WHO の COVID-19 情報を「Discover」と「Free Basics」を通じて、世界で最も弱い立場にある人々にモバイル形式で提供しています。この取り組みにより、十分なサービスを受けていない人々が、55 カ国以上の参加事業者を通じて、命を救う COVID-19 健康情報を入手できるようになります。

2021 年 8 月 17 日

[WHO, Facebook and Praekelt.Org provide critical mobile access to COVID-19 information for vulnerable communities](#)

WHO is working with Facebook and Praekelt.Org to provide WHO's COVID-19 information to the world's most vulnerable people through Discover and Free Basics in a mobile-friendly

format.

WHO : COVID-19 後の臨床データと報告の標準化

WHO は、「Long COVID」とも呼ばれる COVID-19 感染から復帰した後の状態に関するデータ収集と報告を合理化する課題に取り組んでいます。

COVID-19 と診断された人のかなりの部分は、疲労、息切れ、神経合併症などの症状が長引きます。このプロジェクトは、これらの患者を調査し、病態を理解するために測定すべき患者のデータを確立します。

2021 年 8 月 17 日

[International Youth Day 2021: Quality data crucial for improving adolescents' health and well-being in countries across the world](#)

International Youth Day is held on the 12th August every year. This important event brings global attention to the specific and diverse issues which young people face and shines a spotlight on the power and potential of young people to speak for themselves and to make lasting change.

In recognition of the considerable challenges faced by adolescents to their sexual and reproductive health and rights, WHO has published a series of “country profiles” to summarise data on key issues.

2021 年国際青少年デー：思春期と青少年の性と生殖の健康

8 月 12 日は国際青少年デーです。WHO は、性と生殖に関するデータを要約した「国別プロフィール」を発表しました。

この資料は、50 カ国の思春期の性と生殖に関する健康問題を正確に描写することを目的としています。社会人口統計学的特性、性行為、子どもの結婚 / 組合への加入状況、出産、妊娠の意図と避妊具の使用、妊娠中絶、HIV やヒトパピローマウイルスを含む性感染症、ジェンダーに基づく暴力、女性器切除、月経という 10 種類の分野に関する関連データがまとめられています。

2021 年 8 月 17 日

[WHO Statement on advancing the next series of studies to find the origins of SARS-CoV-2](#)

Following the publication of the WHO-China joint report of the phase one studies on the origins of the SARS-CoV-2 virus in March 2021, WHO has outlined the next series of studies that need to be undertaken and continues to be in discussions with Member States and experts on next steps.

To move forward, WHO calls for all governments to depoliticize the situation and cooperate

to accelerate the origins studies, and importantly to work together to develop a common framework for future emerging pathogens of pandemic potential.

新型コロナウイルスの起源と WHO 声明

WHO は、すべての政府が新型コロナウイルスの起源に関して政治問題化することなく、調査を加速するために協力すること、そして、パンデミックの可能性のある将来の新興病原体に対する共通のフレームワークを開発するために協力することを呼びかけています。

2021 年 3 月に新型コロナウイルスの起源に関するフェーズ 1 研究の WHO と中国の共同報告書を発表した後、WHO は次に実施すべき一連の研究の概要を明らかにし、次のステップについて加盟国や専門家との議論を続けています。

次の調査では、初期の症例の生データと血清サンプルをさらに調査することになります。調査を迅速かつ効果的に進めるために、中国を含むすべての国に支援を呼びかけています。

2021 年 8 月 17 日

[Cote d'Ivoire declares first Ebola outbreak in more than 25 years](#)

The Ministry of Health of Cote d'Ivoire today confirmed the country's first case of Ebola since 1994. This came after the Institut Pasteur in Cote d'Ivoire confirmed the Ebola Virus Disease in samples collected from a patient, who was hospitalized in the commercial capital of Abidjan, after arriving from Guinea.

コートジボワールでエボラ出血熱発生

コートジボワールで 1994 年以来となるエボラ出血熱の感染例が確認されました。

コートジボワールに拠点を置く WHO のスタッフは、発生状況の調査を支援しており、さらに、すべての主要な対応分野をカバーする WHO 専門家の学際的なチームが、現場に配置されます。

2021 年 8 月 17 日

[Neglected tropical diseases: enhancing safe treatment for more than 1 billion people annually](#)

A manual designed to help health workers to better administer and manage the safety of people who benefit from free medicines for neglected tropical diseases¹ (NTDs) has been published by the World health organization (WHO).

顧みられない熱帯病：医療提供における安全性マニュアル

WHO は、顧みられない熱帯病 (NTDs) のための無料医薬品の恩恵を受けている人々の安全性を、医療従事者がより適切に管理・運営するためのマニュアルを発表しました。本マニュアルは、新たな提言を行うものではなく、年間 10 億人以上の人々に安全かつ効率的に医薬品を投

与するための WHO の既存のガイダンスの重要な部分を集約し、強調することを目的としています

「顧みられない熱帯病のための医薬品投与の安全性マニュアル」では、主に予防化学療法が可能な 5 つの NTDs を治療するための医薬品の安全な投与の計画、準備、監視をさらに向上させるためのトレーニングや業務支援などの実践的なツールが含まれています。

[マニュアル](#)

2021 年 8 月 18 日

[ACT-Accelerator launches urgent US\\$ 7.7 billion appeal to stem surge of dangerous variants and save lives everywhere](#)

Accelerator has mounted a US\$ 7.7 billion appeal, the Rapid ACT-Accelerator Delta Response (RADAR), to urgently:

Scale up testing: US\$2.4 billion

Maintain R&D efforts to stay ahead of the virus: US\$ 1 billion

Address acute oxygen needs to save lives: US\$ 1.2 billion

Rollout of tools: US\$ 1.4 billion

Protect frontline healthcare workers: US\$ 1.7 billion

コロナ変異株対応に 77 億ドル資金協力の緊急アピール

デルタ株は強い感染力を持つ変異株として世界に蔓延しつつあります。感染率の上昇に伴い、医療システムは圧倒され、救命の酸素も多くの国で急激に必要となっています。

ACT アクセラレーターは、変異株への対応などで新たに 77 億ドルの資金協力について緊急アピールを行いました。

これは、検査体制の強化、酸素、個人用防護具 PPE、継続的な研究開発などのために、今後 4 か月以内に必要とされるものです。

(備考) ACT アクセラレーター (Access to COVID-19 Tools (ACT) Accelerator) ; COVID-19 を収束させる上で決め手となる検査、治療、ワクチンの 3 つの医療ツールの開発、生産を加速化し、低・中所得国への公平なアクセスを実現させるため国際協働の枠組み

2021 年 8 月 18 日

[Fast Facts on Climate Change and Health](#)

Climate change is resulting in poorer health outcomes, increasing mortality and is a driver of health inequities. However, health is well placed to be a significant part of the solution; the positive health impacts from stronger climate change action can motivate stronger global ambition; health systems which are resilient to climate change can help protect their

populations from the negative impacts (in the short and longer terms); and sustainable low carbon health systems can make a substantial contribution to reducing national and global emissions.

気候変動と健康に関するファクトシート (国連)

気候変動と健康に関するファクトシートが国連から発表されました。これは国連気候行動チームの「Climate Fast Facts」シリーズの一部です（このファクトシートは WHO のそれとは少し内容に違いがあります）。

Fast Facts の要約は以下の通り。

- 1) 気候変動は、人類が直面する単一の健康に対する脅威としては最大のものです。毎年、環境要因によって約 1,300 万人の命が奪われています。気候変動の影響は、大気汚染、病気、異常気象、強制移住、食料不安、精神的な圧迫など、すでに健康に害を及ぼしています。
- 2) パリ協定の目標を達成すれば、大気汚染の削減だけで、2050 年までに世界で年間約 100 万人の命を救うことができます。
- 3) CO2 排出量の削減によって得られる健康上の恩恵は、削減対策コストの約 2 倍になります。
- 4) 90 % 以上の人々が健康に有害なレベルの大気汚染に暴露されています。
- 5) 交通機関は、世界の二酸化炭素排出量の約 20 % を占めています。
- 6) 食品の生産、包装、流通に関わるシステムは、温室効果ガス排出量の 3 分の 1 を占めています。
- 7) 健康を守り、健康格差の拡大を避けるために、各国は気候変動に強い健康システムを構築しなければなりません。
- 8) 多国間の気候変動対策資金のうち、保健分野のプロジェクトに充てられているのは 2 % にも満たない状況です。
- 9) 生物多様性はかつてないほどの速さで失われつつあり、世界中の人々の健康に影響を与え、新たな感染症のリスクを高めています。

2021 年 8 月 23 日

[New WHO Publication: Infodemic Signal Detection During the COVID-19 Pandemic](#)

A new WHO paper has been published describing the development of a social listening public health taxonomy for COVID-19. A social listening taxonomy can be thought of like a tree. The trunk is the general topic of interest, the branches are more specific categories relevant to that topic, and the twigs of those branches are the sub-categories that have an even narrower focus. This model can be used to navigate the information overload that can occur during an infodemic.

偽情報シグナルの検出 (論文)

COVID-19 のためのソーシャルリスニング・パブリックヘルス・タクソノミー (注) の開発に

ついて記載した WHO の新しい論文が発表 (JMIR Infodemiology に掲載) されました。何十億もの情報やメッセージをタクソノミーによる分類法でフィルタリングすることで、記述内容の分析がより効率的になり、信号とノイズが除去されるため、専門家は変化する地域社会や人々の関心事をよりよく聞き取り、対応することができます。

この論文は、JMIR Infodemiology に掲載されたもので、COVID-19 に関するオンラインでの一般的な会話から、関連する混乱点、有害な表現・記述、重要な質問を特定するために、この手法をどのように開発・適用したかを説明しています。この分類法は、2020 年 3 月以降、毎週発行される EPI-WIN グローバル分析レポートに使用されており、COVID-19 に関する 14 億件以上の一般投稿と 7,000 万件以上の質問が含まれています。

このモデルは、情報氾濫で生じる問題を回避するために使用することができます。また、この手法は、風評被害に対応するだけでなく、専門家が情報の空白をより迅速に発見し、その空白が風評被害で埋め尽くされる前に、より積極的に対処することを可能にします。

(注) タクソノミー：類似性と差異に基づいて情報などの命名と分類を行うアプローチ

[論文の詳細](#)

2021 年 8 月 23 日

[Statement of the Twenty-Ninth Polio IHR Emergency Committee](#)

The twenty-ninth meeting of the Emergency Committee under the International Health Regulations (2005) (IHR) on the international spread of poliovirus was convened by the WHO Director-General on 4 August 2021 with committee members and advisers attending via video conference, supported by the WHO Secretariat.

Although heartened by the apparent progress, the Committee unanimously agreed that the risk of international spread of poliovirus remains a Public Health Emergency of International Concern (PHEIC) and recommended the extension of Temporary Recommendations for a further three months.

ポリオ、国際的に懸念される緊急事態を継続

ポリオウイルスの国際的拡散に関する国際保健規則 (2005 年) (IHR) に基づく緊急委員会の第 29 回会合が、8 月 4 日に開催されました。国際的な感染拡大のリスクは依然として「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC)」であることに全会一致で同意し、暫定勧告をさらに 3 カ月間延長することを推奨しました。

野生型ポリオウイルスの感染は減少を続けており、2020 年の同時期に 94 件の WPV1 が発生したのに対し、パキスタンとアフガニスタンからそれぞれ 1 件ずつ、計 2 件の WPV1 が発生した 2021 年 1 月以降、新たな感染者は発生していません。

2021 年における循環型ワクチン由来ポリオウイルスの感染者数は、2020 年の総感染者数 1069 人に対し、これまでのところ 170 人となっています。

委員会は、ポリオ感染拡大リスクが小康状態にあると認識しつつも、依然として国際的な感染拡大のリスクが継続していることは明らかであり、国際的に協調した対応が必要であると結論づけました。

2021年8月23日

[Call for experts to join Scientific Advisory Group for the Origins of Novel Pathogens](#)

The World Health Organization (WHO) today issued an open call for experts to serve as members of the new WHO Scientific Advisory Group for the Origins of Novel Pathogens (SAGO).

The SAGO will advise WHO on technical and scientific considerations regarding the origins of emerging and re-emerging pathogens of epidemic and pandemic potential, and will be composed of a wide range of experts acting in their personal capacity.

WHO：新規病原体の起源に関する諮問グループ (SAGO) を新設

WHO は新規病原体の起源に関する諮問グループ (SAGO) を新設し、そのメンバーとなる専門家を公募しました (応募期限：9月10日)。

近年、SARS-CoV、MERS-CoV、ラッサ、マールブルグ、エボラ、ニパ、鳥インフルエンザなど、脅威度の高い病原体の出現・再出現が増加しており、最新のものでは SARS-CoV-2 (新型コロナウイルス) があります。これらの病原体の出現や、自然界の貯蔵庫から人間への感染経路を研究するための体系的なプロセスだけでなく、迅速な発見と緩和活動のためのサーベイランスと早期行動が必要であることは明らかです。

SAGO は、流行の可能性のある新興・再興病原体の起源に関する技術的・科学的考察について WHO に助言するものであり、個人の資格で活動する幅広い専門家で構成されます。SAGO は、SARS-CoV-2 の起源を理解するための次のステップについても WHO に助言します。

(備考) SAGO : Scientific Advisory Group for the Origins of Novel Pathogens

2021年8月24日

[World Humanitarian Day 2021](#)

This year's World Humanitarian Day (19 August 2021) is devoted to dealing with the climate crisis, the single biggest health threat facing humanity. This day is a crucial milestone in the lead up to the COP26 summit in November when leaders from 196 countries will meet to agree action to get climate change under control.

世界人道の日：気候危機への対応

今年の世界人道デー (8月19日) は、人類が直面している唯一最大の健康上の脅威である気候危機への対応を掲げています。この日は、11月に開催される COP26 サミットに向けての重要な節目となります。

気候変動は、食糧システム、疾病の分散、健康システム、そして社会全体に影響を及ぼす健康上

の緊急事態です。世界各地で記録的な熱波、壊滅的な暴風雨、そして気象パターンの変化を目の当たりにしている今、世界人道デーのテーマが「気候危機」であることは、まさに当を得たものです。

世界で最も弱い立場に置かれている何百万人もの人々に残された時間は限られています。気候危機はすべての人に平等に影響を与えるものではありません。脆弱な地域の人々は、すでに家や生活、命を失っています。

気候変動に対するワクチンはありません。しかし、私たちには解決策があります。私たちは、気候危機に対処することで、健康への最悪の影響を回避しつつ、健康上のメリットを最大限に享受しなければなりません。また、COVID-19 パンデミックからの「より良い復興」に向けて、気候変動に強い保健システムをあらゆる場所で推進しなければなりません。

2021年8月25日

[World leaders and experts call for significant reduction in the use of antimicrobial drugs in global food system](#)

Global leaders and experts today called for a significant and urgent reduction in the amounts of antimicrobial drugs, including antibiotics, used in food systems recognizing this as critical to combatting rising levels of drug resistance.

The Global Leaders Group on Antimicrobial Resistance- today called upon all countries to significantly reduce the levels of antimicrobial drugs used in global food systems. This includes stopping the use of medically important antimicrobial drugs to promote growth in healthy animals and using antimicrobial drugs more responsibly overall..

食料生産に使用する抗菌薬の大幅削減を

抗菌薬耐性に関するグローバルリーダーズグループは、本日、すべての国に対し、世界の食料システムで使用されている抗菌薬の量を大幅に削減することを呼びかけました。これには、健全な動物の成長を促進するために、医療に重要な抗菌薬を使用することを中止し、抗菌薬の使用全般に責任を持つことが含まれます。

重要な行動の呼びかけは以下の通りです。

- 1.人間の医療に重要な役割を果たす抗菌薬を、動物の成長を促進するという目的で使用することを中止する。
 - 2.健康な動植物の感染予防のために投与する抗菌薬の量を制限し、規制当局の監視のもとで使用することを徹底する。
 - 3.医療・獣医学的に重要な抗菌剤の店頭販売を廃止または大幅に縮小する。
 - 4.農業や養殖業における感染予防と制御、衛生、バイオセキュリティ、ワクチン接種プログラムを改善することにより、抗菌薬の全体的な需要を低減する。
 - 5.動物と人間の健康のために、高品質で手頃な価格の抗菌剤の普及を確保し、食糧システムにおいてはデータに基づいた持続可能な抗菌剤の革新的代替品開発を促進する。
-

2021年8月25日

[More than 700 million people with untreated hypertension](#)

The number of adults aged 30–79 years with hypertension has increased from 650 million to 1.28 billion in the last thirty years, according to the first comprehensive global analysis of trends in hypertension prevalence, detection, treatment and control, led by Imperial College London and WHO, and published today in The Lancet. Nearly half these people did not know they had hypertension.

未治療の高血圧症患者は世界で 7 億人以上

インペリアル・カレッジ・ロンドンと WHO が主導した、高血圧の有病率、検出、治療、コントロールの動向に関する初めての分析によると、30～79 歳の成人で高血圧の人は、過去 30 年間で 6 億 5,000 万人から 12 億 8,000 万人に増加しています。

約 5 億 8,000 万人の高血圧症の人びと（女性の 41%、男性の 51%）は、診断を受けたことがないため、自分の病気に気付いていません。その結果、高血圧患者の半数以上（女性の 53%、男性の 62%）、7 億 2 千万人が必要な治療を受けていないことが示されました。（調査結果は本日の The Lancet 誌に掲載）

WHO は、高血圧症治療に関する新しいガイドライン「WHO Guideline for the pharmacological treatment of hypertension in adult」を発表し、各国が高血圧症の管理を改善するための新たな推奨事項を示しています。

[The Lancet の論文](#)

[WHO のガイドライン](#)

2021年8月26日

[Impact on the ground: WHO's action in countries, territories and areas](#)

Country case studies are one of three integral components of WHO Results Framework. Together with Impact Measurement and Output Scorecards, they paint qualitative picture of WHO's work at the country level and give narrative texture to 2020 WHO Midterm Results Report. As a mainstay of GPW13 reporting, this publication presents a collection of more than 80 country case studies on WHO's role and its adaptability to drive public health impact in different country contexts.

WHO の活動報告書:国別ケーススタディ

本書は、GPW13（第13次総合事業計画 2019–2023）の報告書の柱として、様々な国の状況において公衆衛生上を促進するための WHO の役割とその適応性に関する 80 以上の国別ケーススタディをまとめたものです。

ケーススタディは現場から直接寄せられたもので、2019年から2020年にかけて実現した WHO

の主要な成果と影響を紹介しています。国レベルでの WHO の活動の質的なイメージを描き、物語のような質感を与えています。これらは、「すべての人に健康な生活と幸福を」という「3 つの 10 億人の目標」の約束を実現するための、WHO のさまざまな取り組みの一端を示しています。

2021 年 8 月 30 日

[WHO issues rapid communication on updated guidance for the management of TB in children and adolescents](#)

A [rapid communication](#) released by the World Health Organization (WHO) Global Tuberculosis Programme has announced important updates to guidance on the management of tuberculosis (TB) in children and adolescents. This includes new recommendations on diagnostic options, treatment regimens, as well as treatment decision algorithms and optimal models of care for the delivery of child and adolescent TB services.

子どもと青年の結核管理に関するガイダンス更新

WHO の世界結核プログラムは、子どもと青年の結核管理に関するガイダンスの重要な更新を発表しました。これには、診断方法、治療薬、治療方針決定のアルゴリズム、小児・青年期の結核患者に対する最適なケアモデルに関する新たな推奨事項が含まれています。

以下は今回の重要な改訂事例です。

- ・肺結核の兆候や症状を有する 10 歳未満の小児において、結核の初期診断検査として胃吸引液または便検体から、リファンピシン耐性を検出することに関する推奨。
- ・16 歳未満の、薬剤感受性が高度でない結核患者に対して、標準的な 6 ヶ月治療薬ではなく、4 ヶ月治療薬を使用することを推奨。

[ガイダンスの更新内容](#)

2021 年 8 月 30 日

[Joint Statement of the Multilateral Leaders Taskforce on Scaling COVID-19 Tools](#)

At its third meeting, the Multilateral Leaders Taskforce on COVID-19 (MLT), the heads of the International Monetary Fund, World Bank Group, World Health Organization and World Trade Organization - met with the leaders of the African Vaccine Acquisition Trust (AVAT), Africa CDC, Gavi and UNICEF to tackle obstacles to rapidly scale-up vaccines in low- and lower middle-income countries, particularly in Africa, and issued the following statement:

ワクチン格差解消にむけた国際機関の共同声明

ほとんどの低所得国では、成人の 2 % 未満しかワクチン接種が完了していないのに対し、高所

得国では 50 % 近くに達しています。 アフリカ諸国の大半を占めるこれらの国々では、2022 年に 70 % というアフリカ連合の目標はおろか、9 月までにすべての国で 10 %、2021 年末までに 40 % という世界的な目標を達成するためにさえ、十分なワクチンを入手することができません。

COVID-19 に関する多国間リーダーズタスクフォース (MLT) の第 3 回会合では、国際通貨基金、世界銀行グループ、世界保健機関、世界貿易機関の首脳が-アフリカワクチン入手トラスト (AVAT)、アフリカ CDC、Gavi、ユニセフの首脳と会談し、特にアフリカの低・中所得国に対するワクチン供給の障壁を取り除き、公平な供給を求める声明を発表しました。

ワクチンメーカーに対し、COVAX および AVAT との契約を直ちに優先的に履行し、定期的に明確な供給予測を提供することを求めます。

また、G7 およびすべてのワクチン分担国に対し、ワクチン調達の可視性、製品の保存期間、補助的な供給のサポートを強化した上で、国際的誓約を早急に履行することを求めます。これまでのところ、約束された約 9 億回分のうち、わずか 10 % しか出荷されていません。

2021 年 8 月 30 日

[Moving towards digital documentation of COVID-19 status](#)

On 27 August 2021, WHO published a guidance document for countries and implementing partners on the technical requirements for issuing digital certificates for vaccination against COVID-19. The full guidance can be found [here](#). The guidance is part of a series of planned documents on digitalization of COVID-19 certificates. The guidance will, amongst other things, Support Member states in adopting digital tools for documenting COVID-19 vaccination status for the purposes of effective health care, and proof of vaccination should it be needed for other purposes.:

ワクチン接種のデジタル証明書発行の技術的要件

ワクチン接種証明は別に新しいものではありませんが、これまでは紙のカードで作られていました。 WHO は加盟国や実施パートナー向けに、COVID-19 に対するワクチン接種のデジタル証明書発行の技術的要件に関するガイダンス文書を発表しました。

これは、ワクチンの接種状況に関して標準化され、相互運用が可能となるデジタル証明書を発行するためのシステム要件、およびそのようなシステムを導入する際の考慮事項についてのガイダンス文書です。

[ガイダンス](#)

2021 年 8 月 30 日

[World Patient Safety Day 2021](#)

World Patient Safety Day – established by the World Health Assembly in 2019 through

resolution WHA72.6 on “Global action on patient safety” – is observed annually on 17 September. Objectives of the day are to enhance global understanding of patient safety, increase public engagement in health care safety, and promote global action to prevent and reduce avoidable harm in health care.:

世界患者安全の日 (9月17日)

世界患者安全デー (World Patient Safety Day) は、2019年の世界保健総会で「患者安全に関するグローバルアクション」に関する決議により制定されたもので、毎年9月17日に実施されます。

今年のテーマは、Safe maternal and newborn care (安全な妊産婦・新生児ケア)、スローガンは、Act now for safe and respectful childbirth (安全で尊敬される出産のために今すぐ行動を) です。母体と新生児のケア、特に被害が最も多く発生する出産前後のケアにおける安全性を優先して取り組む必要性があります。

毎日、約5400件の死産が発生し、810人の女性が命を落とし、6700人の新生児の命が失われています。このことは、COVID-19パンデミックによる医療サービスの中断がさらに状況を悪化させている中で、特に重要です。

出産時の女性の経験は、ジェンダー平等や暴力の問題にも影響されるため、世界患者安全デーでは、尊重されたケアという重要な概念と、その安全性との関連性を強調しています。

[厚生労働省 \(我が国の取組み\)](#)

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう 標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、WHO ニュースリリース、声明及びメディア向けノート の原文をこちらからご確認下さい。

<https://www.who.int/news-room/releases>

<https://www.who.int/news-room/statements>

<https://www.who.int/news-room/notes>